

深耶馬溪の谷から台地にかけての こけ植物・地衣類群落

谷部のこけ植物群落



ムチゴケーヒノキゴケ群落



ヒノキゴケ



キダチヒラゴケ



ジャゴケ

深耶馬溪は、台地がV字形に侵食され、自然の残された谷部は、冷涼多湿な環境に支えられ豊かなこけ植物群落を保っています。一方、台地の谷に面した縁は、谷からの気流の影響もあって岩上には特徴的な着生群落が見られます。また、台地上の樹木には、良好な地衣類群落が残されています。なお、こけ植物は、外見上根、茎、葉に区別できる蘚類と、平たく張りついたような形の苔類に分けられます。

● 林内の地上や株元のこけ植物群落

溪流辺の林内の地上は、こけ植物がゆるやかな起伏を保ちながら濃い緑と萌黄色の織り成すじゅうたんを思わせるように広がり、木々の間からこぼれる散光に照らされ見事な景観をつくっています。

● 常緑樹の葉の上に生育する苔類群落

ツバキなどの生きた葉の上に苔類が生育しています。主としてカビゴケですが、この他多種の苔類が報告されており特徴的な地域です。これも、高湿度に支えられての結果です。



カビゴケ

● 林内の樹皮や岩上のこけ植物群落

林内の幹や岩の上には、大小のこけ植物が繁茂しています。



溪流内の岩上植生

● 溪流内の岩上のこけ植物群落

溪流内の岩石の水際は、流水の衝撃を直接受ける面と流れの裏側ではこけ植物の群落を異にし、流れの速さも加わり複雑です。例えば、ホウオウゴケ群落は流れの後側の水際にみられます。

水際から上部へと離れるにつれ、水没することも少なくなり、苔段は乾燥が増します。これに伴ってこけ植物群落も変化しています。



ホウオウゴケ



キヨスミイトゴケ

台地上のこけ植物・地衣類群落

ムギラン・シダレヤスデゴケ群落



● 木の枝から垂れ下るこけ植物群落

溪流辺に近いところでは、木の枝からすだれ状に藓類が垂れ下がり深山幽谷の美に一景を添えています。キヨスミイトゴケが主で、うす黄緑色をし、長いものは30~40cmに達しています。特にうつくし谷には良好な群落がありましたが、先の洪水により多くが消滅しました。

ウメノキゴケ群落



● 谷に面する台地の縁の岩上植物群落

台地の縁には、アカマツやツガを伴う林が、そそり立つ巨岩を抱きながら帯状に残っています。この岩上は、谷からの多湿で冷涼な気流の影響を受けこけ植物・地衣類に加え、ムギランやマメヅタラン他をとともなう着生群落となっています。

● 台地上の樹皮に着生する地衣類群落

地衣類は、大気汚染に対し全般に敏感な（弱い）ため大気の診断の指標植物として高い価値を持っています。ところが近年、酸性雨をはじめとする地球規模の大気汚染で原生林においても地衣類は減少しています。

なかでも、特に敏感だとされるのがサルオガセ類で、木の枝や幹から糸状に長く垂れ下がる地衣類ですが、英彦山・犬ヶ岳でも僅かにしか見ることが出来ません。

そんな中で、家籠地区の「一本くぬぎ」とその周辺には、多くの地衣類と共にサルオガセ類が良好に生育を続けています。



ホンドサルオガセ